

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立板橋有徳高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 総務部7名
- (3) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授）、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、区教育委員会、地域センター所長、警察署課長 計7名
- (4) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務主任、1年次主任、2年次主任、3年次主任 計10名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月13日（金）協議委員5名、内部委員10名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、令和6年度学校経営報告、令和7年度学校経営計画の説明、本校の現状と課題等説明、各分掌・年次より今年度の目標について説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月28日（金）協議委員3名、内部委員10名
教育活動に関する中間報告、協議委員から教育活動に対する意見、協議
 - 第3回 令和8年2月13日（金）協議委員2名、内部委員10名
学校評価アンケート結果についての報告、学校運営に関する評価委員からの助言及び提言、協議、次年度に向けた課題の確認
- (2) 評価委員会の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年11月28日（金）評価委員1名、内部委員2名
学校評価の基本方針の確認、設問内容の検討
 - 第2回 令和8年2月13日（金）評価委員1名、内部委員2名
今年度の学校評価アンケート結果の分析、次年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の取組」「働き方改革」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

12月	全校生徒	対象：549人	回収：477人	回収率：87%
12月	保護者全員	対象：549人	回収：252人	回収率：28%
12月	地域・住民	対象：75人	回収：51人	回収率：68%
12月	教職員	対象：45人	回収：45人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定した。
- (4) 評価結果の概要
生徒について、例年と比べて結果に大きな変化はなく、生徒はおおむね学校生活に満足し、本校に入学してよかったと感じている。一方、保護者からの評価において、昨年度と比べて肯定的な回答数が減少した。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・ 学習活動について

授業満足度が比較的高いことから、学力上位層を伸ばす取り組みだけでなく、基礎基本の定着を目指し授業改善を行うなど、基礎学力の定着を重視した授業も行われていることが生徒たちにとっての満足感につながっていることがうかがえる。

- ・ 学校行事について

昨年度から3年次生も含めた全校生徒が文化祭に参加するようになったことをはじめ、生徒による実行委員会を中心に行事を進めるなど、全校生徒がより主体的に参加できる体制を整え、学校行事が充実するように努めている。これらの取り組みにより、学校行事の満足度が向上したばかりでなく、生徒たちの変容が顕著にみられ、自身の在り方や生き方について深く考えるようになり、多くの教育成果を得ることができたと考える。今後も更なる改善を模索し、生徒の成長と学校満足度の向上に向けて、さらなる努力と発展を図っていく。

- ・ 部活動について

部活動については、昨年と比べて肯定的な回答が増加し、各部活動における大会等の表彰数が増加するなど活性化の兆しを見せている。部活動が活発であると回答した生徒が80%であるのに対し、保護者が59%に止まっており、情報発信の活性化等の工夫が必要である。また、部活動に対して意欲が高い生徒が多い一方、活動時間の確保が難しいことなどが課題として挙げられる。いかに効率よく活動するかを工夫するほか、各部活動の情報を積極的に学校内外に発信し、部活動の活性化を促していく。

- ・ 生活指導体制について

生活指導についての生徒の満足度が前年度より向上した一方で、保護者の満足度は低下する結果となった。生徒が安心して生活できるよう、学校の生活面や安全管理について生活指導体制を充実させ、巡回の頻度を増やすなど校内の見守りをこれまで以上に強化して、安全確保の取り組みを進めてきたが、学校の取り組みをより丁寧に伝え、保護者の皆様に安心していただけるよう努めるとともに、地域・保護者の皆様と協力しながら、安全で安心な学校づくりを進めていく。

- ・ 地域の皆様のアンケートから

地域との連携については、文化祭において防犯さすまた体験や護身術講座のために高島平警察署に防犯に関するブースを開いていただき、地域の方にも参加いただいた。また、徳丸親和会による神輿が来校し、学校の発展を祈願していただくなど、地域とのつながりを改めて実感するひとときとなった。

一方、アンケートからは、生徒の地域での活動に余地があることがうかがえる。今年度の学校としての地域ボランティア活動への参加はまだ1回のみであり、学校として参加できる地域活動を計画する必要がある。また、書道やラグビーの公開講座の実施やダンス部、箏曲部、吹奏楽部などの地域での活動の強化、学校生活のウェブサイトへの投稿などの広報活動の強化により、本校の教育活動への理解を深めていく。

- ・ 教員の状況について

教員のアンケートにおいて、「生き生きと勤務しているか / どちらかといえばしている」との回答が昨年度に比べ減少した。年々、教育に関する業務の内容が多岐にわたり、その量が増加している状況において、本校においても長時間勤務の教員が多い状況にある。業務の精選が必要とされるが、生徒の確かな学びと成長、進路の実現、安全な学校生活などに止まらず、今後の本校の教育に必要なものを見極めてそこに注力し、省力できるものについては外部人材を活用するなどして効率よく教育活動を進める必要がある。

- ・ 保護者・地域との連携

本校の教育活動を推進するにあたり、保護者や地域の方々からの信頼を得ることが不可欠である。全教職員が一致団結し、生徒一人ひとりの成長を支援することで、保護者や地域の方々に対して本校の価値を示すことができる。そのために保護者や地域との協力関係を築きながら、生徒たちが成長できるよう全力でサポートしていく。生徒たちの成長と社会への貢献が実現されるよう、努力を重ねていくことが求められている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校の教育活動を推進するにあたり、保護者や地域の方々からの信頼を得ることが不可欠であ

ることを再確認することができた。全教職員が一致団結し、生徒一人ひとりの成長を支援することで、保護者や地域の方々に対して本校の価値を示していく。また、保護者や地域との協力関係を築きながら、生徒たちが成長できるよう全力でサポートし、生徒たちの成長と社会への貢献が実現されるよう、努力を重ねていく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

協議委員による助言や学校評価アンケートからは、生徒の地域での活動に余地があることがうかがえた。引き続き生徒が参加できるボランティア活動を模索していく。特に近隣の地域のボランティア活動への参加を計画する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・ 生徒・保護者に対して、学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・ 安心して通える学校づくりを一層推進していく。

(2) 学習指導

- ・ 若手教員研修等も活用して教員相互の授業参観を実施する。また、参観結果のフィードバックを更に充実させる。
- ・ 一人一台端末の効果的な活用を促す。

(3) 特別活動

- ・ 部活動や生徒会活動等についての生徒満足度に関しては、前年度と比べて大きな変化はなかった。生徒の満足度を向上させるために、教職員の意識を改革し、指導体制を構築していく。

(4) 生活指導

- ・ 生徒支援委員会、ケース会議や精神科医による研修会を含め、生徒の抱える様々な課題に関する会議の継続的な開催。校内での情報共有だけでなく、医療・公的機関等との連携も重視する。

(5) 進路指導

- ・ 土曜特訓や講習等の効果を検証し、実施方法を改善する。進路アドバイザー制度について教職員の理解を深め、取組みを充実させる。3年間を見通した進路指導計画を立て、計画的に指導するとともに、模試分析会を経た教科会で生徒の学習状況を分析し、指導に反映させていく。

(6) 組織運営

- ・ 情報の共有化に努めるとともに、学校評価の結果を活かし、全教職員が当事者意識をもって学校の課題を把握し、改善に向けて具体的方策を考察して実行に移していく。

(7) 募集対策、広報活動

- ・ 都のPR事業の活用、Instagram、X（旧ツイッター）の活用、生徒主体の動画の作成、生徒による学校紹介の充実などに努め、中学生及びその保護者が本校での学校生活をイメージできるように、日々の教育活動の様子を積極的に発信する。

(8) 働き方改革

- ・ 放課後の補習や大学受験対策講座などに外部人材を活用して対応していく。外部機関と業務委託契約を結び、教科の教員と連携して外部講師を活用した講座を開設する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	3					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回、企画調整会議 0回